



為石小学校の合言葉 「ためし 最高! ~地元で学び 地元を活かし 地元とともに行動する子ども~」



学校だより



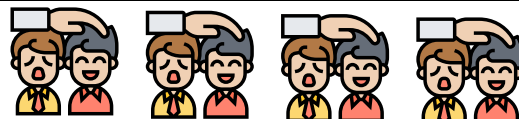
ためし

○楽しく めあてをもって しっかり学ぶ
○正しく めあてを しっかり守る
○たくましく めあてに向かって しっかり鍛える



令和7年7月11日号 文責 上久木田 雄二

学習への向き合い方



小学校2年生から4年生まで、私の担任はずっと同じでした。クラスは、各学年4クラスずつあったので、珍しいケースではないかと思っています。

担任だけでなく、ある女の子ともずっと同じクラスで、そのほとんどを隣の席に座っていました。

計算が得意だった私が、その女の子にかなりの時間教えていたことを今でも覚えていています。

ところで、子どもたちの学習に向かう態度はさまざまです。大きく4つのパターンがあると私は思っています。

- ①一人でも学習に粘り強く向き合う
- ②仲間がいれば学習に向き合える
- ③教師からの刺激があれば学習に向き合える
- ④少ない人数なら学習に向き合える



これは、学習への向き合い方ですので、得意不得意や好き嫌いは関係ありません。

完全な①である子どもは、かなり少数です。通知表なら、学びに向かう力（主体的に学習に取り組む態度）が「A」という評価になります。

②や③は、もしかしたら得意不得意に左右されることがあるかもしれません。一定の学習が終わったときに、「なんとかやり終えた」自覚が子どもの中に残れば「良し」となります。通知表では「B」と表されることが多いかもしれません。ほとんどの子どもたちが、ここに当てはまらと思っています。

④は、学習に困り感を抱いていることが多いので要注意です。教室で一斉に学習することで、逆に自信を失いやすくなります。「分からない」を言い出せないでいるのかもしれないのです。

子どもたちの学習の向き合い方を考えることは、子どもたちの「学習権」を保障することと同じであると思っています。

私の経験から「良くてできるようになりたい」と思う子どもはそれほど多くないのですが、「分からないからそのままが良い」と思う子どもはいません。

小学校のときの経験を振り返ると、自分の学習権を大切に考える子どもを育てることは、周りの人の学習権にも目を向けることにつながることを私は学んだように思っています。

HPはこちら



二次元コード読み取り 「カラー版は、ホームページでご覧いただけます。」

